

VI 検討委員会議事概要

◎ 第1回検討委員会

(1) 開催日時

平成18年12月22日(金) 14:00～16:00

於 高森総合センター

(2) 出席者

渡辺 千賀恵 座長	九州東海大学大学院都市工学科教授	
小林 豊 委員	熊本県地域振興部交通対策総室長	
梅本 茂 委員	熊本県地域振興部地域政策課長	代理：政策審議員 小林 弘史 氏
守田 眞一 委員	熊本県商工観光労働部観光物産総室長	代理：副総室長 佐伯 和典 氏
福山 武彦 委員	熊本県阿蘇地域振興局総務振興課長	
木庭 強 委員	熊本県警察本部交通部交通規制課長	
園田 羊一 委員	熊本県阿蘇市まちづくり商工観光課審議員	
村上 源喜 委員	熊本県高森町企画財政課長	代理：企画財政審議員 甲斐 敏文 氏
十時 久三男 委員	熊本県南阿蘇村企画課長	代理：企画課長補佐 今村 氏
寺崎 彰 委員	熊本県山都町企画振興課長	
黒田 傳 委員	熊本県大津町企画政策課長	
東 政臣 委員	熊本県西原村総務課長	
崎村 純一郎 委員	九州旅客鉄道株式会社熊本支社 総務企画課営業担当課長	
津留 恒誉 委員	南阿蘇鉄道株式会社専務取締役	
石田 徹 委員	産交バス株式会社営業企画部長	
古田 政数 委員	熊本経済同友会インフラ整備部会運営委員	代理：事業企画グループ長 藤田 幸人 氏
坂元 英俊 委員	(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長	
和田 眞幸 委員	阿蘇市観光協会理事	
山口 一尚 委員	南阿蘇観光協会連絡協議会会長	
瀬井 威公 委員	九州運輸局企画観光部交通企画課長	
小宮 範幸 委員	九州運輸局企画観光部観光地域振興課長	
湯元 日出光 委員	九州運輸局鉄道部計画課長	代理：調整官 伊藤 仁美 氏
山口 英行 委員	九州運輸局自動車交通部旅客第一課長	
本田 泰久 委員	九州運輸局熊本運輸支局首席運輸企画専門官	

(3) 検討項目

- ① 調査方針
- ② 南阿蘇地域の現状把握について
- ③ DMV の概要整理について
- ④ 南阿蘇鉄道の現状把握について
- ⑤ 実証実験ルートの検討について

(4) 議事概要

【確認された方向性】

- ・ 南阿蘇鉄道への DMV 導入実証実験に向けたスタートを切ることで合意された。
- ・ DMV の運行ルートについては、観光を主眼においてルート検討を行う方向性が示された。
- ・ 地域の活性化効果を目指すには、観光客への PR や観光プランの提供など、各関係機関における実証実験に併せた地域の仕掛けづくりも必要であるという認識が示された。

【委員からの意見】

実証実験に関して

- ・ 南阿蘇鉄道のダイヤを変更するためには半年前には計画が必要である。
- ・ 観光シーズンの渋滞対策を考慮する必要がある。
- ・ 観光客の呼び込みと地域の活性化を考えるのであれば、短期間での実験ではなく、ある程度の期間を持った実験としたい。
- ・ 宿泊施設との連携など、滞在型の観光を目指した計画を立てたい。
- ・ 南阿蘇鉄道の南北の施設を周遊させたい。

【検討事項】

- ・ 富士市（岳南鉄道）及び JR 北海道（釧網本線）での実験運行について事例を整理する。
 - 運行目的
 - 運行期間
 - 運行方法 等

◎ 第2回検討委員会

(1) 開催日時

平成19年2月6日(火) 14:00～16:00

於 エアポートホテル熊本

(2) 出席者

渡辺 千賀恵 座長	九州東海大学大学院都市工学科教授	
小林 豊 委員	熊本県地域振興部交通対策総室長	
梅本 茂 委員	熊本県地域振興部地域政策課長	
守田 眞一 委員	熊本県商工観光労働部観光物産総室長	代理：副総室長 佐伯 和典 氏
福山 武彦 委員	熊本県阿蘇地域振興局総務振興課長	
木庭 強 委員	熊本県警察本部交通部交通規制課長	
園田 羊一 委員	熊本県阿蘇市まちづくり商工観光課審議員	
村上 源喜 委員	熊本県高森町企画財政課長	代理：企画財政審議員 甲斐 敏文 氏
十時 久三男 委員	熊本県南阿蘇村企画課長	
寺崎 彰 委員	熊本県山都町企画振興課長	
黒田 傳 委員	熊本県大津町企画政策課長	代理：参事 西光 優人 氏
東 政臣 委員	熊本県西原村総務課長	
崎村 純一郎 委員	九州旅客鉄道株式会社熊本支社 総務企画課営業担当課長	
津留 恒誉 委員	南阿蘇鉄道株式会社専務取締役	
石田 徹 委員	産交バス株式会社営業企画部長	
古田 政数 委員	熊本経済同友会インフラ整備部会運営委員	
坂元 英俊 委員	(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長	
和田 眞幸 委員	阿蘇市観光協会理事	
大塚 久司 委員	九州運輸局企画観光部交通企画課長	
小宮 範幸 委員	九州運輸局企画観光部観光地域振興課長	代理：地域第一係長 桑島 隆一 氏
湯元 日出光 委員	九州運輸局鉄道部計画課長	
山口 英行 委員	九州運輸局自動車交通部旅客第一課長	
本田 泰久 委員	九州運輸局熊本運輸支局首席運輸企画専門官	

(3) 検討項目

- ① 富士市・JR 北海道の実験運行の概要について
- ② 技術的可能性の検討について
- ③ 南阿蘇地域への導入意義について
- ④ 実証実験計画（案）について

(4) 議事概要

① 富士市・JR 北海道の実験運行の概要について

指摘・質問・意見	対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 試運転と本実験の日程がそれぞれ組まれているが、その間車両はどうしたのか。 ・ 招待客は応募者か関係者か。 ・ ガイドウェイ方式を採用した理由はなぜか。 ・ 実験と本走行で使用車両が異なると施設が無駄になるので注意して議論したい。 	<ul style="list-style-type: none"> … 試運転後に一旦返却し、都合 2 回運搬した。 … 富士市の広報で公募をかけ市民から抽選した。 … JR 北海道から借りられる車両がこのタイプだったため。なお、三角形ガイドについては、JR においても実用化前の段階である。 … ご意見として賜り、ルート検討の方向性として留意する。

② 技術的可能性の検討について

指摘・質問・意見	対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両が軽量であると列車検知ができなくなる理由と、その対策の検討はしているのか。 ・ 強風・横風対策はどうなっているか。 ・ 線路改修（スロープ設置）は全線に必要か。 ・ 標高の高い場所を通る際の凍結・積雪に対する走行性に問題はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> … 車両の重量及び車軸数は、軌道回路による列車検知の重要な要因となる。（重量が大きいほど電気が通りやすくなる。） 課題に対しては、開発元の JR 北海道においてもまだ技術開発の途上である。釧網線の試験的営業運転では、踏切では複数のシステムを組み合わせることで列車検知の自動化を図るが、現段階では 300 万円/箇所が必要である。列車保安については線路閉鎖に準じた扱いを行う予定である。 … 現在の JR 北海道の見解では、通常の鉄道車両と同等の基準で運行可能。（南阿蘇鉄道の基準では風速 20m/s 以上で運行停止となる。） ただし実験においては、強風の際の迂回ルートを併せて考慮する必要がある。 … DMV が走行する区間は全て必要になる。 … JR 北海道において、今年度の実験走行を踏まえ一定の見解をまとめるとのことである。

③ 南阿蘇地域への導入意義について

④ 実証実験計画（案）について

指摘・質問・意見	対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験の日程について、ある程度まとまった期間で実施したいという意見もあるなかで、事務局が「数日間の規模」と言及された理由を確認したい。 ・ 全体事業費の大体の予算を示した方がより具体的な姿を見据えて議論できると思う。 ・ ②案の阿蘇山西行きルートは過去の運行実験で利用が少なかった。再考すべきでは。 ・ 熊本県では「新幹線くまもとづくりプロジェクト」で南阿蘇鉄道の DMV に対しても一定の位置付けを検討しているので、文言を調整したい。 ・ ルートを南阿蘇地域に限定しない方がよい。観光施設の周遊プランなどもどうか。 ・ この実験の目的が「南阿蘇地域全体の観光客増加」なのか「南阿蘇鉄道の DMV 導入検討」なのか。費用負担のことも含め実験の位置付けははっきりさせておきたい。 ・ 観光のアピールを目的と考えるならば、JR と協力して有償にて福岡からのモニターツアーが組めないか。 ・ 社会実験と実証実験という言葉が混在している。 	<ul style="list-style-type: none"> … 人為的に頼らざるを得ない面があり、実験にかかる費用等から現実的な制約条件を加味した表現に記述を見直す。 … 富士市、JR 北海道及び南阿蘇鉄道のヒアリングより、ルートに併せた概算費用を提示する。 … 平成13年度の実績データを確認したところ、夏休み期間中に16日間（1日4往復、総計128便）運行され、1便あたりの乗車人数は1.8人。1日あたりの乗車人員が10人に満たない日も5日間あった。南阿蘇鉄道沿線周遊ルートに見直して提案する。 … 報告書とりまとめの際に改めて調整させて頂きたい。 … ご意見として賜り、今後の検討において留意させて頂きたい。 … 実証実験は第1回の検討委員会において、実証実験は観光を主眼に置くという合意がなされたものと認識しているが、文言について検討させて頂きたい。 … ご意見として賜り、今後の検討において留意させて頂きたい。 … 表記は「実証実験」に統一する。

→ 第2回検討委員会では、実験ルートの考え方について中心に議論を行った。

→ 実証実験にかかる費用については、ルートに応じた概算見積を検討し、第3回委員会にて報告することが確認された。

◎ 第3回検討委員会

(1) 開催日時

平成19年3月20日(火) 14:00～16:00

於 エアポートホテル熊本

(2) 出席者

渡辺 千賀恵 座長	九州東海大学大学院都市工学科教授	
小林 豊 委員	熊本県地域振興部交通対策総室長	代理：主幹 内田 清之 氏
梅本 茂 委員	熊本県地域振興部地域政策課長	代理：政策審議員 小林 弘史 氏
守田 眞一 委員	熊本県商工観光労働部観光物産総室長	代理：副総室長 佐伯 和典 氏
福山 武彦 委員	熊本県阿蘇地域振興局総務振興課長	
木庭 強 委員	熊本県警察本部交通部交通規制課長	
園田 羊一 委員	熊本県阿蘇市まちづくり商工観光課審議員	
村上 源喜 委員	熊本県高森町企画財政課長	
十時 久三男 委員	熊本県南阿蘇村企画課長	
寺崎 彰 委員	熊本県山都町企画振興課長	代理：企画広報係長 藤島 精吾 氏
黒田 傳 委員	熊本県大津町企画政策課長	代理：参事 西光 優人 氏
東 政臣 委員	熊本県西原村総務課長	
津留 恒誉 委員	南阿蘇鉄道株式会社専務取締役	
石田 徹 委員	産交バス株式会社営業企画部長	
坂元 英俊 委員	(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長	
大塚 久司 委員	九州運輸局企画観光部交通企画課長	
小宮 範幸 委員	九州運輸局企画観光部観光地域振興課長	代理：地域第一係長 桑島 隆一 氏
湯元 日出光 委員	九州運輸局鉄道部計画課長	
本田 泰久 委員	九州運輸局熊本運輸支局首席運輸企画専門官	

(3) 検討項目

- ① 実証実験計画について
- ② 来年度の実施体制（案）について
- ③ 南阿蘇鉄道への DMV 本格導入にあたっての課題と対応について

(4) 議事概要

① 実証実験計画について

委員からの指摘・質問・意見	対応・回答
<p>● 実験概算費用について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証実験の予算規模としては、概ね 4 千万円程度となることが想定される。 ・ 全線運行の際にどのような費用が大きく発生するのかというなかで、費用見積にある「線路改修」とは何を行うのか。 ・ DMV の運行距離によって実験費用が異なるのはなぜか。 ・ 踏切に係る人件費圧縮のために、踏切をロープ等による交通規制により遮断することは可能か。 ・ 踏切を遮断せずに、DMV 側が踏切で徐行や一旦停止し、安全を確認しながら走行する考え方は可能か。 ・ 踏切監視要員配置数の考え方と、位置付けを教えてください ・ 交通整理員という表記は正確ではない 	<ul style="list-style-type: none"> … 実験ルート検討にあたっての目標値として考慮する。 … DMV のタイヤがレールの突起物に引っかからないように、犬釘（レールチョック、フックボルトなど）を交換する必要がある。 … 区間によって改修の作業量が異なるためである。また DMV が通過する踏切数によっても左右される。 … 交通規制には法的に必要要件が定められており、実証実験実施だけを目的とした車両通行止による対応は難しい（熊本県警よりコメント） … 作業用車両では同様の対応をしているので、不可能な方法ではない（南阿蘇鉄道よりコメント） … 富士市の事例を参考に、南阿蘇鉄道沿線交通量の違いを勘案して設定した。監視要員は、本走行時はボランティア、夜間試運転時はアルバイトを想定している。 … 交通誘導員という表記に改める。
<p>● 実験ルートについて</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全には最大限の配慮を払う必要がある。実験の趣旨を外れなければ実験ルートが多少短くなっても構わないのではないか。 ・ 強風による実験中止のリスクを避けるために、強風の影響を受けやすい区間（立野ー長陽間）は道路走行とすべきではないか。 ・ 線路条件に不慣れなバス運転士が線路上を運転することに対する不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> … ご意見として賜り、今後の検討において留意させて頂きたい。 … ご意見として賜り、今後の検討において留意させて頂きたい。 … ご意見として賜り、今後の検討において留意させて頂きたい。

→ 実験ルートについては、事務局より提示した 6 つの実証実験ルート案のなかからルートを決めることはせずに、委員会での議論の結果を踏まえながら、来年度に JR 北海道との協議等を行い検討を進めることで了承された。

② 来年度の実施体制（案）について

委員からの指摘・質問・意見	対応・回答
・ 実証実験の実施主体ではない特定の事業者や関連団体の名称については、体制表から除外して欲しい。	… 体制表の表記方法を修正する。

→ 来年度は、本年度の委員会メンバーを軸にした協議会を設置する。また、事務局は熊本県、沿線町村及び南阿蘇鉄道で構成し、必要に応じて実務レベルで検討を行う検討部会（プロジェクトチーム）を設置する体制で臨むことが了承された。

③ 南阿蘇鉄道への DMV 本格導入にあたっての課題と対応について

委員からの指摘・質問・意見	対応・回答
・ 本章の位置付けについて、不明瞭な部分がある。	… 文言を追記・修正する。

④ とりまとめ

報告書のとりまとめについては、委員長一任として了承された。